



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

# 会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST  
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



# 2

2011, February

第1891回例会

平成23年2月15日



地域を育み、大陸をつなぐ



## 会長報告

帯広東ロータリークラブ  
会長 加藤 昭治



帯広5ロータリーと芽室、音更の7ロータリークラブの皆様こんにちは。本日のゲストは帯広生まれで長野冬季オリンピック金メダリストであります清水宏保様です。

本日は大変お忙しい中、なんとか日程を調整しお越しいただきました。皆様ご存知の通り日本人初のスピードスケート金メダリストで、長野から始まり4大会全て出場し最後にソルトレークでは銀メダルを獲得され、ワールドカップではなんと34勝という世界のトップスケーターとして活躍されました。昨年現役を引退されましてこれを機に地元をはじめ多くの方々に応援頂いたことに対して感謝する意味も込めて、今までスポーツを通して得て来た事を社会に還元しようとして決意され今春より日大の大学院に進学し医療を学ばれるとのことです。

又昨年からは帯広の観光大使となり地元や世の中に貢献していきたいと考えていらっしゃいます。このことにつきましては私たちのロータリー活動に大変関わりのあることであります。また通じる所でもあります。また今月は国際ロータリー月間ですので最もふさわしいテーマだと思っております。短い時間ではございますが最後まで楽しんで頂きたいと思っております。

会 長	鈴木 享	広報委員長	高田 晃一
副 会 長	土肥 孝紀	広報副委員長	奥田 頼昌
副 会 長	齋藤 憲生	委 員	柳沢 一元
幹 事	古田 敦則	委 員	大須賀真太郎
会 計	小甲 哲士	委 員	谷脇 正人
S A A	若林 剛	委 員	河西 智子

2011年2月  
世界理解月間  
ロータリー創立記念日(23日)

## たいまつ宣言

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に改革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

## 出席状況報告

月/日	11/4	11/11	11/18	11/25
例 会	1879回	1880回	1881回	1882回
会員総数	63名	63名	63名	63名
出席計算に用いた会員数	59名	61名	60名	61名
ホームクラブ出席	42名	46名	48名	40名
メイクアップ	12名	11名	7名	14名
出席率	91.5%	93.4%	91.6%	88.5%
月平均	91.2%			

## 今月の主な行事

- 2月 3日 結婚・誕生祝
- 10日 休会
- 15日 7RC合同例会 (3/17線上)
- 24日 夜間例会 創立記念
- 27日 第6区分区IM (3/3線上)



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

【国際ロータリー世界理解月間】  
**帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ**  
**・音更ロータリークラブ合同例会**

総合司会 帯広東RC 大塚正昭SAA  
 点 鐘 帯広東RC 加藤昭治会長  
 開会宣言 帯広東RC 大塚正昭SAA  
 ローターソング(我らの生業)

講師入場先導 帯広東RC 石川博機副会長  
 ゲスト紹介 帯広東RC 石川博機副会長  
 スピードスケート長野五輪 500m金メダリスト  
 清水宏保様

会長挨拶 帯広東RC 加藤昭治会長  
 会務報告

- ①帯広RC、2月14日(月)の例会は2月15日の繰り下げ例会と致します。  
 帯広RC、2月16日(水)の例会は2月15日の繰り下げ例会と致します。  
 帯広西RC、2月17日(木)の例会は2月15日の繰り下げ例会と致します。  
 帯広北RC、2月18日(金)の例会は2月15日の繰り下げ例会と致します。
- ②帯広北RC、創立記念や慣例会開催のご案内  
 日 時 平成23年2月23日(水)午後6時  
 場 所 ホテル日航ノースランド帯広  
 ※尚、2月25日(金)の繰り上げ例会と致します。
- ③帯広西RC、創立記念夜間例会のご案内  
 日 時 平成23年2月24日(木)午後6時  
 場 所 シャレード
- ④RI第2500地区第6分区【IM】開催のご案内  
 日 時 平成23年2月27日(日)  
 午後1時(受付12時～)  
 場 所 十勝川温泉笹井ホテル  
 ※尚、帯広南RC、2月28日(月)の繰り上げ例会と致します。  
 帯広東RC、3月1日(火)の繰り上げ例会と致します。  
 帯 広RC、3月2日(水)の繰り上げ例会と致します。  
 帯広西RC、3月3日(木)の繰り上げ例会と致します。  
 帯広北RC、3月4日(金)の繰り上げ例会と致します。

プログラム

講師経歴紹介 帯広東RC 鎌田勉国際奉仕理事  
 講 演 スピードスケート金メダリスト 清水宏保様

スポーツを通じての社会への還元

私は4月から医療のMBA経営学修士を取りに2年間通うことになりました。私は今現在も重度の喘息患者です。小さい時から学校の先生や医師の方々から喘息患者はスポーツしてはいけない、したとしても大成しないと言われてきました。しかし自分はその前例を覆すことが自分のモチベーションでした。今全国の医師や患者に啓発活動を行っていて、たまたま自分は昔から運動療法で喘息を薬なしで大学入学時まで行ってきました。最近でこそ運動療法という言葉をよく耳にするようになりましたが、中には運動を知らない人が運動療法を教えているという現実があります。そこで自分たちスポーツ選手がケガなどで医師や医療関係者との対話やその経験をいかし引退した後のセカンドキャリアとして医療とスポーツを融合させたものを社会に還元していけたらと考えていました。スポーツ選手が医療の国家資格を取りトレーニング理論や栄養学を学びヘルスコンシェルジュの様な存在になって地元に戻って子どもたちにスポーツを教えながら病院や介護などの場で社会に還元していく事が出来れば、スポーツと医療のサイクルが出来ていく、そのようなシステム作りをしてスポーツの付加価値を上げていけたらと考えています。子どもたちに高い技術を教えることが、ゆくゆくは世界のトップで活躍していくことにつながると考えています。その点では帯広はスピードスケートのオリ



ンピックを経験した選手がたくさんそろっていますし、素晴らしいリンクもあるのでモデルケースとして世界に発信していくのにふさわしいと思っています。このように考えるもとなったのは国際経験が大きかった事にあります。スピードスケートはマイナーなスポーツのためほとんどが観光地ではありませんでした。よってそれらの国は他国の文化を受け入れる体制がまだ整っていない地域が多く、自然と日本を客観視し、また自分自身を客観的に見ることが出来るようになります。それがプレッシャーから逃げない精神力や対処能力、瞬間的な判断力の向上につながっていったのではないかと思います。またさまざまなプレッシャーが人間力を高めるための大切なチャンスであると捉え、プレッシャーはサプリメントであると考えてようになりました。現在、スポーツ選手の実態としては、選手個人の潜在能力だけでは世界のトップにはなかなか勝てないですし、諸外国ではスポーツが国威発揚のために利用している国もありますので、その中で良い成績を残すのは大変厳しいのが現状ですがその現在の選手たちを、そして現役を終えた後の選手たちを支え指導して頂くのが皆さんであり、指導者だと思います。そのためにも選手たち一人一人が社会に貢献していくことにより企業が投資する意味、国がスポーツに投資する意味が生まれてくるのではないかと思います。そして私は自分の経験をいかし社会に還元していくことが今後の課題だと思っております。

謝 辞 帯広西RC 鈴木 享会長

最初から最後まで重い意味の込められたお話でした、深い感銘を受けた会場全てのロータリアンを代表致しましてまずお礼を申し上げます。清水さんはこれまでの間世界記録を何度も樹立され4度のオリンピック、金銀銅のメダルの他数多くの大変素晴らしい戦績を残しています、正に十勝が産んだ初めての世界一であるということだと思います。いつも清水さんのインタビューの言葉に哲学的なものを感じておりました。我々の想像を超えるまるで修行僧のような精進を続けられ、試合では34秒と100分の1秒に全てを集中させる、さらにその状況を十数年の間世界のトップに立ち続ける、このように道を究めるや哲学的になるのかあるいは哲学があったからこそトップアスリートであり続けていたのか、今まで清水さんの言葉に触れて私がいつも感じていたことです。清水さんの言葉に「モチベーションは覆すこと」「非常識を乗り越えて成果を出せばそれは常識になる」「夢が大きくなればなるほど困難も大きくなる」「夢がある限り困難は続く」「最高の状態で滑っている時はまわりが真っ白になってただラインだけが光っていた」また本日は「プレッシャーはサプリメント」「レースは作品である」このような数々の言葉の中でも私が最も感動した言葉は長野五輪で2つ目のメダルを手にした試合の後今一番したいことは何かと問われた時「母の手料理が食べたい、母のみそ汁が一番おいしいですから」とおっしゃいました。精神と肉体を限界まで高めて厳しい緊張のレースを戦い終えた時、清水さんのその先にあったのはみそ汁であったということです。その時の清水さんはまるで少年の様でした。今自分が築き、戦ってきた所と最も大事な心の原点の様な所がしっかりとつながっているのだと感じ私は深く感動致しました。これから先は若い世代、特に子ども達への指導におおいに期待をしております。そして夢の33秒台は日本からそして出来ればこの十勝の子ども達の中から出てもらいたいと願っております。そして同時に我々が考えるべきことは、十勝だからこそ若い人たちが子どもたちに清水宏保という人の道のりをしっかりと伝えていくことだと思います。本日は清水さんからスポーツ文化、スポーツを支える面での帯広や我々へのメッセージを頂きました。幼少の頃から30年を超える厳しくそして素晴らしいアスリート人生に敬意を表しまして故郷から応援の気持ちを含め会場全ての人から大きな拍手を送りたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

講師退場  
 先 導  
 閉会宣言  
 点 鐘

帯広東RC 石川博機副会長  
 帯広東RC 大塚正昭SAA  
 帯広東RC 加藤昭治会長